

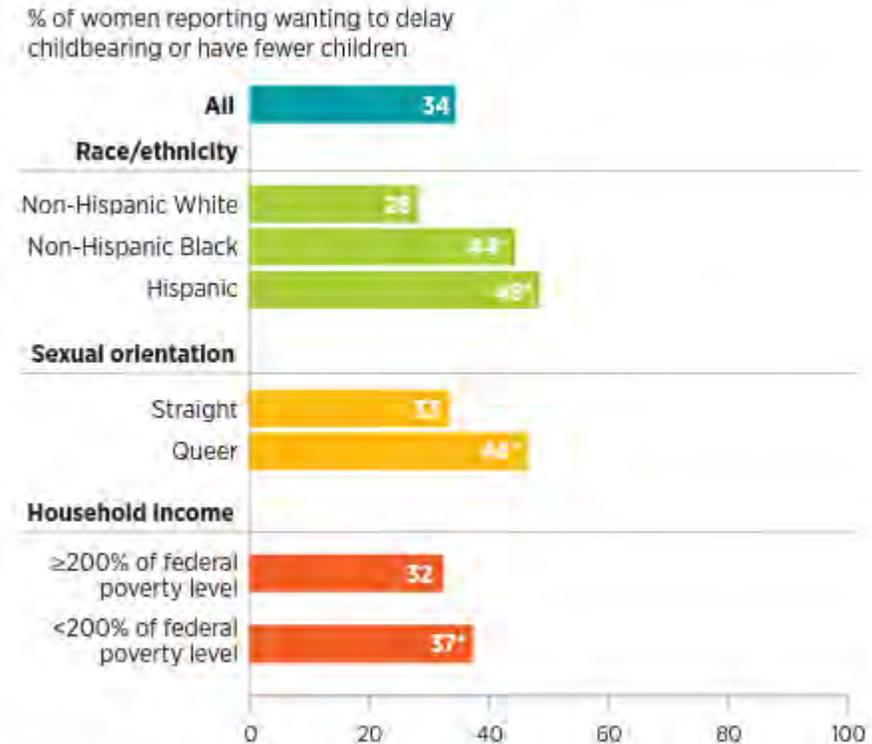
コロナパンデミック時代の 家族形成と生殖医療

女子栄養大学教授
埼玉医科大学名誉教授
石原 理

家族形成行動への影響

- 米国における調査では、ヒスパニックや黒人、性的少数者、経済的余裕がない女性が、子供を持つ時期を遅らせる、あるいはより少数の子を持つと回答した
- 経済的に恵まれない人々に、COVID-19パンデミックの与えた影響が大きかった

FIGURE 1. Many women report that their fertility preferences have shifted in response to the COVID-19 pandemic.

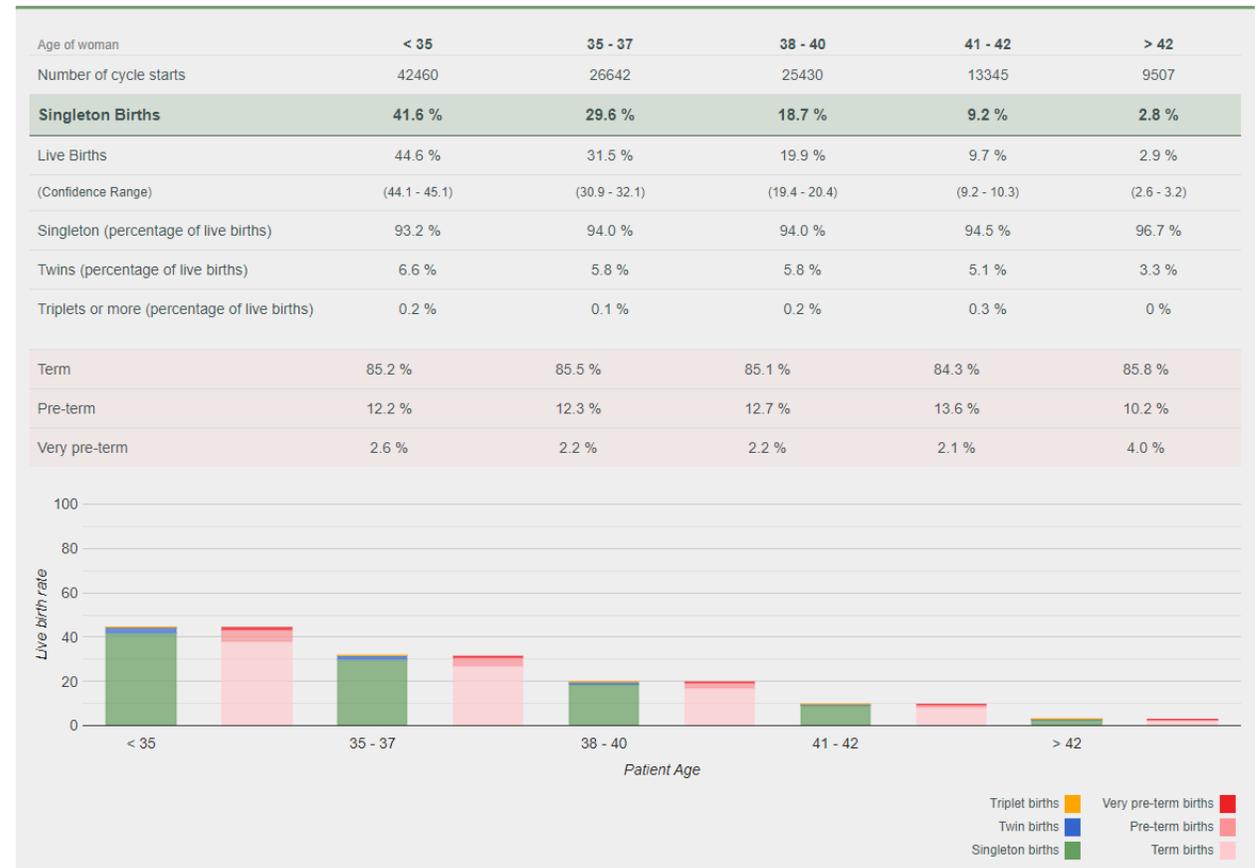


*Difference is statistically significant at $p < .05$. Note: Queer category includes responses of "gay or lesbian," "bisexual" and "other."

生殖医療への影響(米国SARTによる)

- 米国における2020年の全周期数（暫定）は、291484周期で、2019年より2.4%減少した
- 胚移植周期数（暫定）は、76918周期で、2019年より6.3%減少した
- 凍結胚を移植しない行動の影響だが、影響は相対的に小さかったといえる

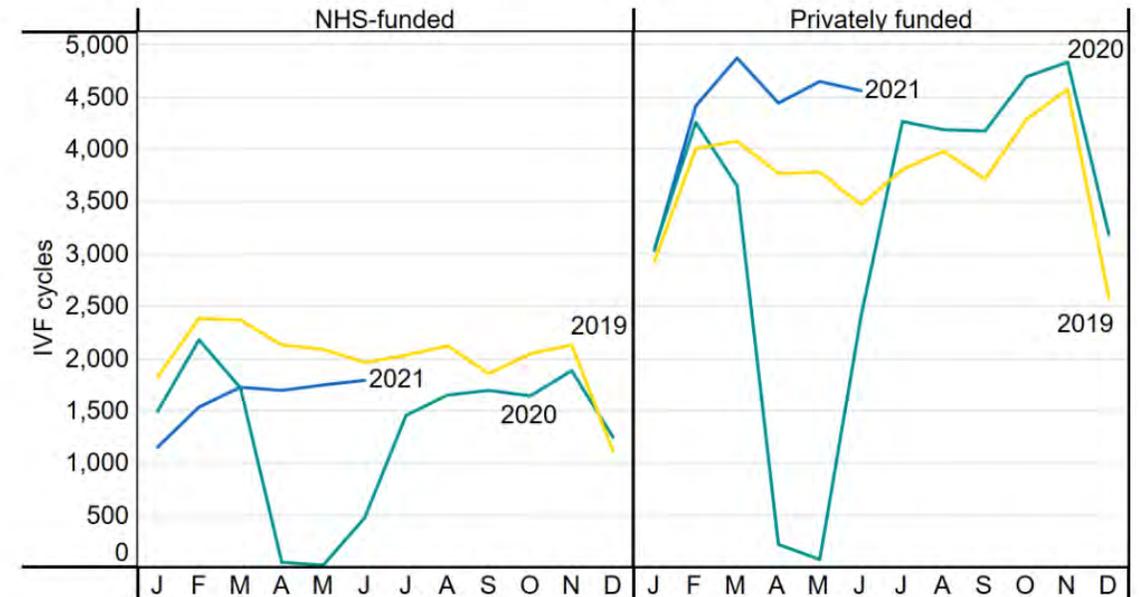
PATIENT'S OWN EGGS
LIVE BIRTHS PER INTENDED EGG RETRIEVAL (ALL EMBRYO TRANSFERS)



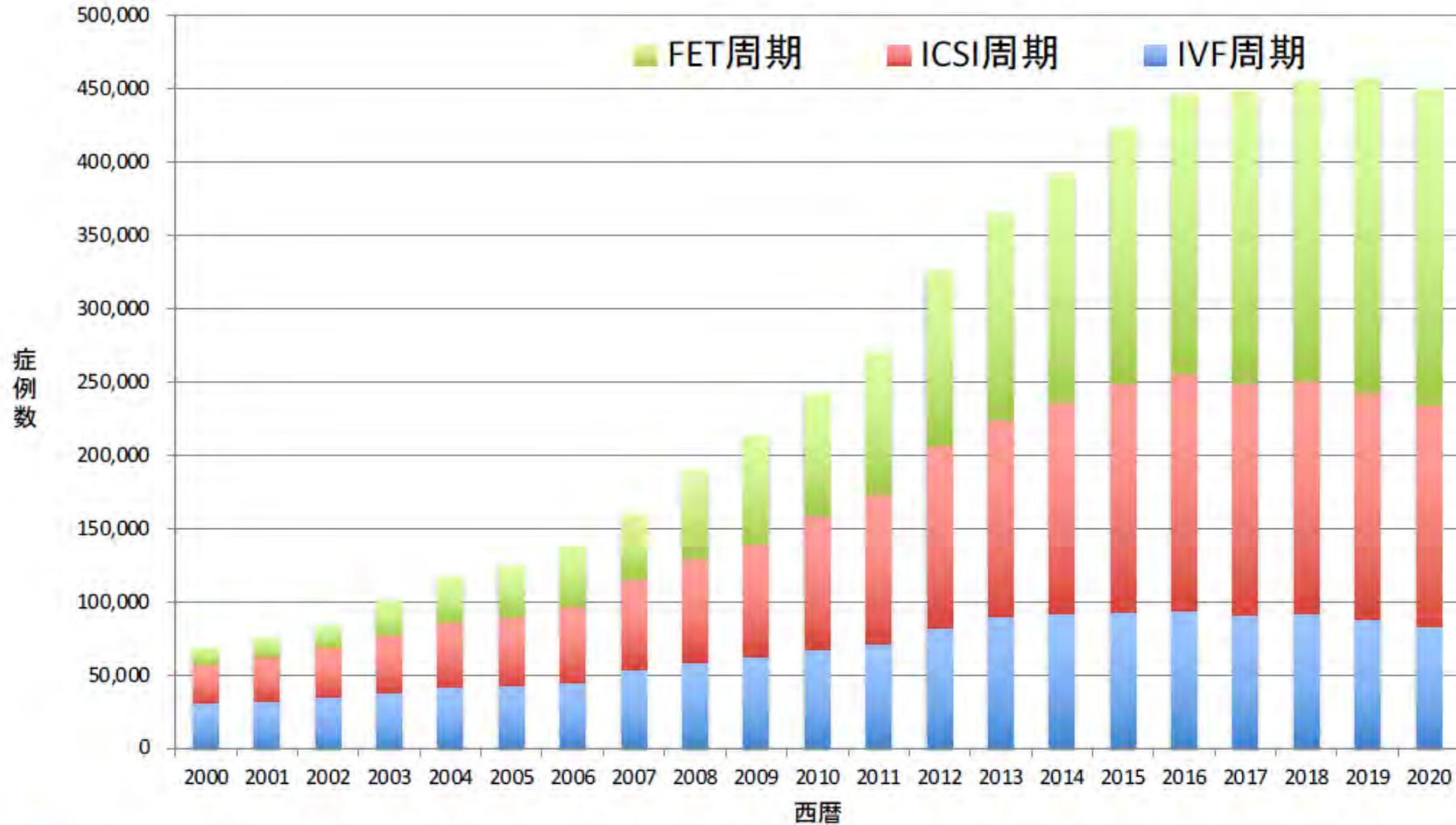
生殖医療への影響（英国HFEAによる）

- 2020年、英国では公費の治療周期は前年より35%減少、私費の周期は13%減少（全体で20%減少）
- 18-34歳の公費周期減少が最大(38%減少)、私費は13%
- クリニック再開後、私費の周期は2021年も継続的に2019年を大きく上回っている

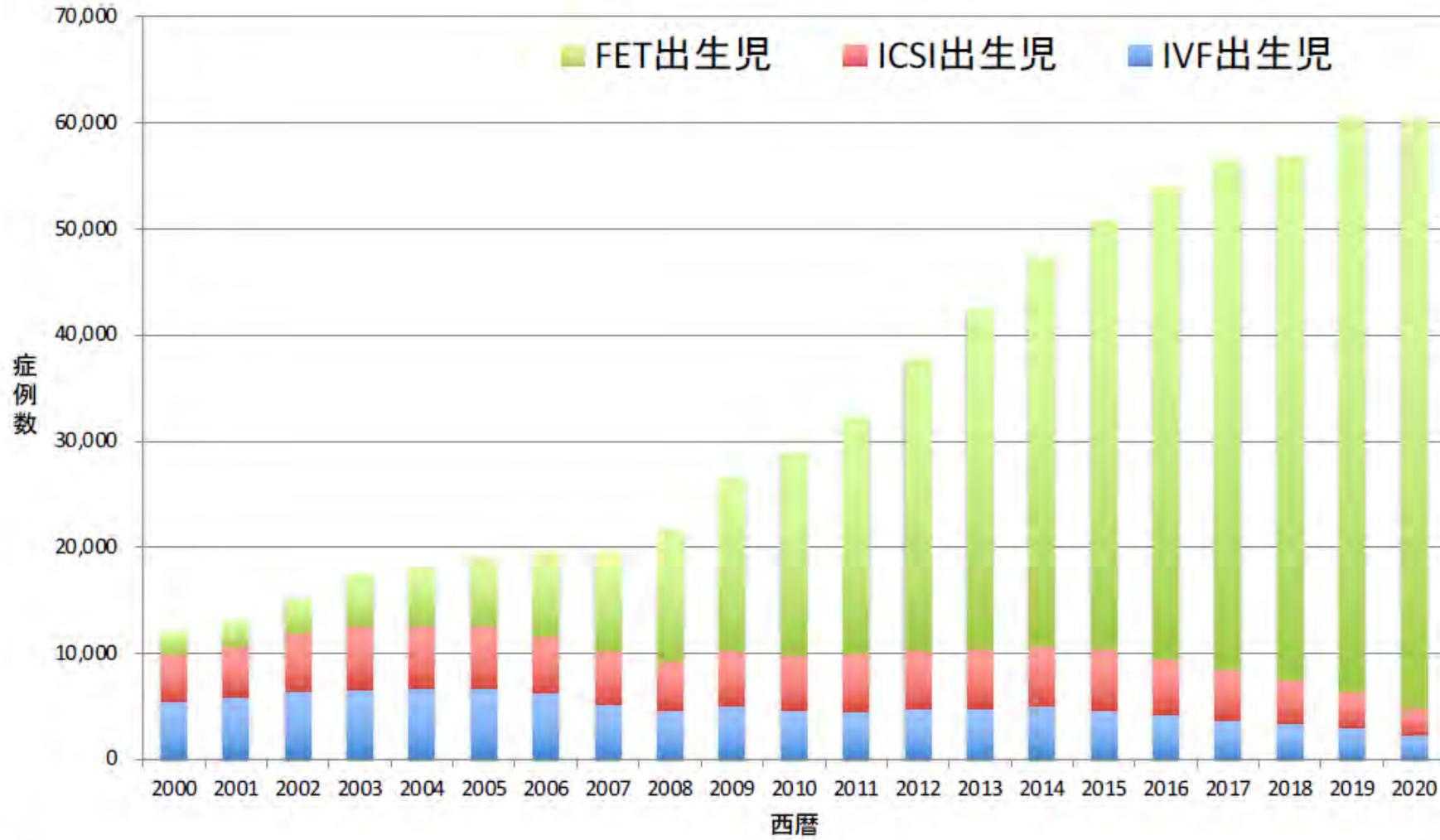
Figure 1. NHS-funded IVF cycles decreased following COVID-19 outbreak
Number of IVF cycles by month and funding, January 2019-June 2021



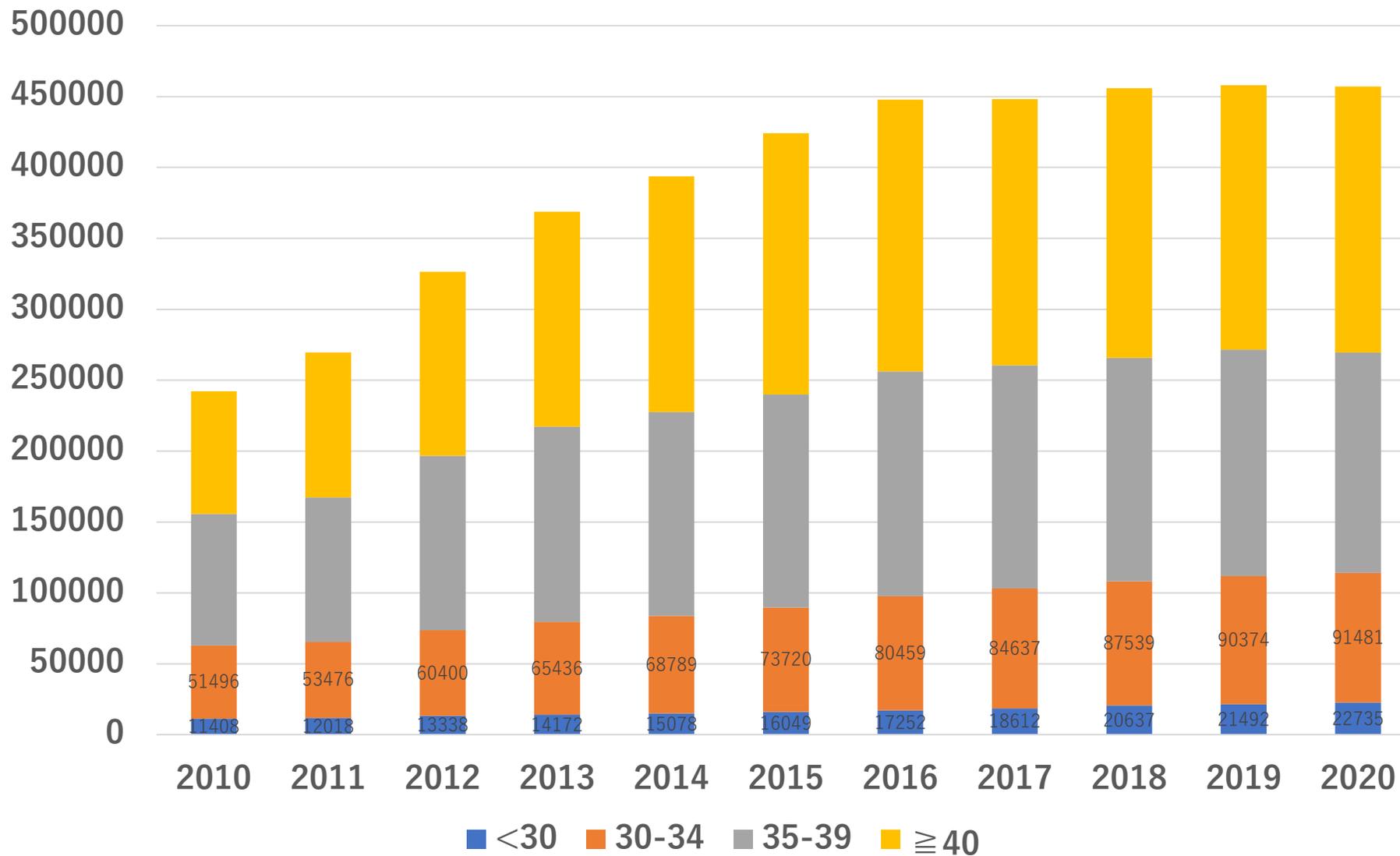
日本における生殖医療周期数の年次推移



生殖医療による出生児数の年次推移



わが国の年齢別生殖医療周期数の年次推移



COVID-19パンデミックの影響

- 各国において、パンデミックが家族形成や出産行動に与える影響の可能性が報告されている
- 生殖医療利用への大きな影響が懸念されたが、その影響はこれまでのところ予想を下回っている
- しかし、各国の状況から、生殖医療を利用できる女性が、経済的強者に偏っている可能性、また、年齢など個別的理由のため、利用を先延ばしできない事情が考えられる
- わが国でも2020年は、はじめて生殖医療の周期数と出生児数が減少したが、わずかにとどまり、手厚い経済的支援の効果が示唆された